

シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン④

エリゲロン

花壇の手前に植える宿根草は、草丈が低く地面を覆うように広がり、花が終わった後も緑の葉が長く楽しめるものをおすすめします。写真1は、北アメリカ原産のエリゲロン・カルピンスキアヌス、和名をゲンペイコギク（源平小菊）といいます。



写真1:エリゲロン6月中旬

花だけをみるとハルジオンに似ていますが、草丈は20cm程度で、5月の連休明け頃から咲き始め7月頃まで楽しめます。エリゲロンの最大の特徴は、咲き始めは花の色が白く、咲き進むにつれて紅色に染まることです。和名の源平小菊は、源氏の旗は白色で、平家の旗は赤色であったことに由来しているそうです。

花壇の手前に植える場合は、数株まとめてグループを作るように植えると、株がゆるやかに地面に広がってゆきます。株と株の間がうまってまいりますと、ほとんど雑草が入り込むことがありません。また、花色が白から桃色、紅色に変化すると同時に花茎がくねくねと上へ上へと伸びてきます。その性質を利用して石垣や、石の階段の石と石の隙間に土を入れて植えますと、まるで、空中に浮かぶ白と桃と紅色の3種類の花が踊っているように見えます(写真2)。

職藝学院

教授 渡邊美保子

一つ一つは目立たない小さなお花の集まりですが、咲き始めるとなぜか花壇にしゃがみこみ、日ごと移ろいゆく花の色を毎日かかさず確かめたくなる不思議な宿根草です。



写真2:グレートディクスターガーデン(イギリス)7月中旬

エリゲロンは、日当たりがよく水はけのよい土壌を好みます。乾燥にも耐え、花がら摘みなどの手間もかからず、植え付け時の施肥だけで何年も楽しむことができます(写真3)。花茎が伸びて株全体が暴れるようでしたら、草丈の半分ぐらいの高さまで切り戻しをして更新するとよいでしょう。



写真3:職藝学院宿根草実験ガーデン5月下旬

右から時計回りにラムズイヤー、アルケミラモリス、エリゲロン